特集

「ひかりＴＶ」によるスマートテレビサービスの確立を目指すＮＴＴぷらら

インタビュー

スマートテレビサービスによる「総合ライフエンターテイメントサービス」への進化を目指す

2013年３月末で245万会員を擁する国内最大のIPTVサービスに成長したＮＴＴぷららの「ひかりＴＶ」。「ひかりＴＶ」の現状と、スマートテレビサービスによる「総合ライフエンターテイメントサービス」への進化を目指す成長戦略を板東浩二社長にうかがった。

株式会社ＮＴＴぷらら　代表取締役社長
板東浩二氏

245万会員を擁する国内最大のIPTV事業者に

――2013年３月末で245万会員と国内最大のIPTVサービスに成長された「ひかりＴＶ」のこれまでの取組みを、周辺環境を含めた事業の現状からお聞かせください。

板東　「ひかりＴＶ」サービスを開始したのは2008年３月で、ちょうど今年の３月で５周年を迎えました。サービス開始当初の計画では、年間30万人程度の会員獲得を目標にしていましたが、結果的には年間50万人前後の会員を獲得し、2013年３月末で245万会員に達成しています。これは、良い意味での見込み違いでした。当初予想をはるかに上回るペースで会員数が伸びた要因の１つとして、我々が考えていた以上に市場での反応が良く、国内IPTV市場の構築スピードの加速があげられます。放送事業者であるNHKが通信と放送の融合を実現した「NHKオンデマンド」を提供したことや、さまざまな映像配信事業者が次々と参入してきました。特に「NHKオンデマンド」が開始されたことで、国内のVOD（ビデオオンデマンド）の著作権処理がかなり進んだと思います。そのような環境の変化もあり、当初ゼロに等しかったVODマーケットを構築することができました。現在のVOD視聴本数は、全会員で月間2,000万回を超えています。この５年間、サービスを拡大するために、がむしゃらに取り組んできました。マーケット構築もかなり進み、お客さまの認知度も向上しました。ようやく、私どものIPTVサービスを“普通に”ご利用いただけるようになったと考えています。

外部機関が高く評価する「ひかりＴＶ」の特長

――板東社長は“普通に”と表現されましたが、外部機関からは高い評価を得ていますね。

板東　おかげさまで、MM総研主催の「映像配信サービスAWARD」では、３年連続で最優秀賞を受賞しています。また、RBB TODAY主催の「ブロードバンドアワード2012」では、テレビ部門のベストテレビサービス（東日本）とビデオオンデマンドの部の２部門で、最優秀賞を受賞しました。非常に高い評価をいただいたポイントとして、①「ひかりＴＶショッピング」のような新サービスやマルチデバイス対応などの先進機能を次々と市場に提供する、先進性や斬新性、②ユーザインターフェース（UI）の弛まない改善、ヘルプデスクによるお客さまサポートなどに見る顧客指向性、③サービス内容の充実度とそれに対するリーズナブルな料金設定などのコアバリュー、があげられます。

――５年間で245万会員を達成された一番の要因として、どのような点があげられますか。

板東　１つには、OTT（オーバー・ザ・トップ）事業者が提供するインターネットを利用したVOD中心の映像配信サービスとは異なり、「ひかりＴＶ」は地デジやBS、そして専門チャンネルとVODという複数の映像サービスをサービス開始当初から提供してきたことがあげられ

ます。放送サービスとVODサービスの両方のメニューを取り揃えたことで、例えば、専門チャンネルで放送されるドラマの新シリーズの開始時期に合わせ、過去シリーズをVODで提供するなど、放送とVODの連携したサービスを提供することが「ひかりＴＶ」では可能です。

２つ目は、クオリティ（品質）の高さがあげられます。これはHD（ハイビジョン）化率に表れていますが、私どもの放送サービスのHD化率は80％を超えており、他社のサービスと比べても高い比率を誇っています。

３つ目は、映像サービスだけでなくショッピング、電子書籍、音楽配信、本年６月より提供を開始した国内初のテレビ向けクラウドゲームサービスなど、新サービスや先進機能をどこよりも早く提供してきた点です。

そして４つ目は、先ほどもお話ししましたが、UIや操作性の改善です。これは、地味で根気のいる仕事ですが、サービス開始当初より、使いやすさを追求するプロジェクトチームを設けて、地道に取り組んでいます。こういった主に４つの点をお客さまに評価していただいた結果だと捉えています。

「ひかりＴＶ」による「スマートテレビサービス」の展開に注力

――先ほどお話しのあったテレビ向けクラウドゲームサービスをはじめとする2013年度の事業展開についてお聞かせください。

板東　今年度の重点施策の１つとして、スマートテレビに対応した「トリプルチューナー」を本年６月３日から提供を開始しました。私どもは、１年以上前からテレビだけでなく、スマートフォンやタブレット端末、PCなどでもコンテンツを楽しんでいただけるよう、マルチデバイスの確立に注力してきました。今回、マルチデバイスによるサービス展開の大きな強化策としてこの新しいチューナーを投入しました。これはAndroid OSをベースとしており、例えばAndroidに対応したアプリをテレビで楽しんでいただくことも可能になります。

新しいチューナーは、従来のチューナーと比較して約10倍の処理性能を持つほか、コンテンツの情報を可視化した「フリックパネル」による使いやすいUIや、お客さまからのご要望が多かった高機能な録画機能、スマートフォンとの連携を容易にするNFC（Near Field Communication）連携タグも搭載しています。今年度は、この新チューナーを活用した「ひかりＴＶ」によるスマートテレビサービスの展開に最大限注力します。

――新サービスとして、どのようなことをお考えですか。

板東　新チューナーの投入に合わせて、日本初のテレビ向けクラウドゲームサービス「ひかりＴＶゲーム」と、テレビ画面上で楽しめる「ひかりＴＶアプリ」の２つの新サービスを提供しました。「ひかりＴＶゲーム」は、約50タイトル（提供開始時は約30タイトル）のゲームが月額525円で遊び放題となっています。ゲーム専用機やゲームソフトの購入・ダウンロードやインストールが不要で遊びたい時にすぐご利用いただけますから、ゲーム市場に与えるインパクトは非常に大きいでしょう。「ひかりＴＶ」独自で開発したタイトルをはじめ、さまざまなジャンルのタイトルもご用意しています。また、「ひかりＴＶアプリ」は、テレビ画面上で楽しめる約50タイトルのアプリを、「ひかりＴＶアプリマーケット」より無料で提供します。この他VODサービスでは、視聴中にVOD映像のタイムラインに合わせて、視聴者それぞれの感情を表現したスタンプやコメントを投稿できる「ソーシャルVOD」機能も提供しました。また、注目を集めている4Kの映像サービスについては、次世代コーデックであるHEVC/H.265により、4KのIP配信トライアルにも取り組んでいきます。

2014年３月末に300万会員の獲得を目指す

――最後に、今後の抱負をお聞かせください。

板東　独自コンテンツの企画・制作力の強化に加え、今までのコンシューマーを対象としたサービス展開から、今後は例えばホテル向けやカラオケBOX向けなど、法人を対象としたサービスの展開にも取り組んでいきたいと考えています。スマートテレビという、これまでのテレビの枠を超えたサービスの展開によって、2014年3月末には300万会員を獲得し、これを基盤にスマートテレビサービスによる「総合ライフエンターテインメントサービス」の実現を目指していきます。

――本日は有り難うございました。

（聞き手：特別編集委員　河西義人）